

化学療法の副作用について



すべての人に副作用が出るとは限りませんが、一般的に現れやすい副作用の症状と時期の目安をお示しします。

抗がん剤治療の一般的な副作用と現れる時期

投与直後～当日

- 吐き気・嘔吐
- アレルギー反応（皮膚が赤くなるかゆい、じんましん）
- 発熱（38℃以上）
- 食欲低下
- 血管の痛み など

2～3日以降

- 吐き気・嘔吐
- 疲労（倦怠感、無力）
- 食欲低下 など

7～14日

- 下痢・便秘
- 口内炎
- 感染しやすくなる（白血球減少）
- 出血しやすくなる（血小板減少） など

14～28日以降

- 脱毛
- 皮膚の乾燥・爪の変形
- 色素沈着（皮膚や爪が黒くなる）
- 手足のしびれ（末梢神経障害）
- 貧血
- 膀胱炎 など

